

広島県経済財政会議（テーマ別懇談会） 議事要旨

- 開催日時：平成26年7月11日（金） 14:00～16:00
- 開催場所：広島県庁北館2階 第2会議室
- 出席者：（主宰）湯崎 英彦 広島県知事
（委員）内田 和成 早稲田大学商学大学院教授
吉田 正子 株式会社アンデルセン・パン生活文化研究所代表取締役社長
(五十音順, 敬称略)
- 議事要旨（委員の主な意見等）
懇談テーマ 「少子化対策・子育て支援・女性の活躍促進」について

懇談会の冒頭、吉田委員より、懇談テーマに関する提案をいただいた後、出席者間で意見交換を行った。

委員提案の概要

即効性があり、効果の高い「女性の職場環境」や「子育て環境」の整備に短期的に取り組みながら、長期的視点で、「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という意識を改革していく必要がある。

意見交換での主な意見

（「女性の職場環境」と「子育て環境」の整備について）

- 事業者側に働きかける際には、問題意識がないのか、また、問題意識はあるが、やる気がないのかを分けて考える必要がある。また、生活のために働いている人へのサポートと、キャリアアップを目指して働いている人へのサポートも区分する必要がある。
- 仕事量が予測できていること、子どもの病気などの不測の事態に対するバックアップ・プランがあることが揃わなければ、子育てと仕事を両立させることは難しい。
- 首都圏では、大企業が社内保育制度を整えているが、通勤時間が長いため十分に活用できていないと聞いている。保育所の場所がどこにあるのかということも重要である。
- 就業継続を希望する女性にフォーカスしてアプローチしてみるのも良いと思う。
- 男性の育児参加の促進や職場環境の整備に、まず県庁が自ら取り組み、発信してはどうか。

（「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という意識の改革について）

- 個人の意識に働きかけるよりは、女性の希望が叶うように応援するというスタイルが良い。女性自身のメリットから説明していくべきだと思う。まず経済成長を掲げてしまうと共感が得られにくいのではないかな。
- 自立教育としての職業教育を、なるべく早い時期から始める方が良い。ゆるやかに幼児期から教えていくことが必要だと思う。また、食育を通じて、どんな人のおかげで自分の目の前に食べ物があるのかを知ることが、職業を意識することにもつながると思う。